





# 三重病院ニュースレター

1  
2009

N E W S L E T T E R vol.113

 平成21年 今年の目標	1ページ
 ロタウイルス胃腸炎の脱水は要注意／募集案内	2ページ
 糖尿病ワンポイントアドバイス～年末年始を上手に過しましょう!／糖尿病教室1月開催のお知らせ	3ページ
 アレルギー教室のクッキング／外来からのお知らせ／外来診察のご案内	4ページ



## 平成21年 今年の目標



国立病院機構三重病院 院長 庵原俊昭

「皆さん、明けましておめでとうございます。」

さて、新年を迎え、皆さんは新しい目標を立てられたことと思います。三重病院院長の今年の目標を、①診療機能、②臨床研究、③教育研修、④情報発信の4つの面からお伝えします。

診療機能の面では、子どもの内科や外科、整形外科だけではなく、神経や筋肉に障害のある方、手足や体の動きに障害のある方、聴覚や視覚に障害のある方、糖尿病や慢性閉塞性呼吸器疾患などの慢性疾患のある方などの、いわゆる「社会的弱者」を支える病院として活動しています。この診療機能を評価して、三重県から、「難病医療拠点病院」、「小児救急医療拠点病院」、「聴覚障害児助成事業医療機関」の認定を受けています。今年も、地域の皆さんの信頼に応えられるよう診療機能を充実させていきたいと思っています。

臨床研究の面では、アレルギー疾患、ウイルス・細菌感染症、ワクチンなどを中心に研究を行っており、国内では高い評価を受けています。大学病院や大規模病院と比べると研究に携わる人数は少ないですが、地域の先生と共同研究を進めています。平成20年度には厚生労働科学研究15件を含め、外部からの委託研究を23件獲得しました。なかでも新型インフルエンザ対策で重要な新しいインフルエンザワクチンの研究では中心的な役割を担っています。今年も、地域の先生方や若手医師と協力して臨床研究を進展させていきたいと思っています。

今年一番力を入れたいのは、職員と看護学生の教育研修です。当院では、医療安全チーム、感染対策チーム、栄養対

策チーム(NST)、PAS作成チームなどの職員参加型の研修や、若手医師を対象とした感染症・国際保健医療協力勉強会、脳波・誘発電位勉強会を行ってきました。今年は看護部を中心に今までから行っています「小児看護、嚥下、こどもの心、人工呼吸器」など、職員の知識や技術を高める研修会を充実させていきたいと考えています。また、昨年度は看護学生の実習を指導する実習指導者を4名養成し、今年からの看護学生教育の充実にも備えました。三重県の医療を充実させるためには、看護師の養成は欠かせません。各病棟では実習に来る学生を暖かく迎え、楽しく仕事する姿を見せてください。各病棟の実習指導者から、「学生へのセミナー」などの要請があったときは、皆さん快く協力をお願いします。「学生が就職したい病院」を目指しましょう。

情報発信の中心はニュースレターです。編集部の皆さんの努力で定期的に発行されています。当院のニュースレターは、他施設の方々から読みやすいと好評です。今年の目標は、多くの人からの投稿です。「謙譲の美德」を発揮せず、自分の部署や自分たちの活動をアピールしてください。私も皆さんに負けないうようにアピールしていきます。

職員の皆さん、診療面でも臨床研究面でも三重病院は三重県になくてはならない病院に位置づけられています。今年度は教育研修の充実を目指して、「楽しく」仕事をしましょう。

最後に、地域の皆さん、医療関係者の皆さん、三重病院は地域との連携を一層密にして活動を行っていきます。今年もよろしくお願ひいたします。

